

子 菅原神社春祭り神幸祭
子ども山笠元気に「オーラーヤッサ」

4月13日からの2日間、菅原神社春祭り神幸祭が行われ、南木灘子の音色と子どもたちの元気な声が、雲一つ無い福智の空に響き渡りました。春祭りの山笠は青少年の健全育成を目的に平成9年に復活し、今では金田3地区と神崎地区の青年部の有志が出す山笠の計4基が参加。熱気あふれる秋の山笠とは異なり、子どもが主役の祭りとして春の風物詩となっています。



↑ 鮮やかなはっぴをまとい、威勢のいいかけ声とともに山笠をひく子どもたち(町部)。

↓「これからよろしく」。少し照れながらも先生と笑顔で握手を交わす弁城小1年生。



期 町内8小・中学校で入学式
期待を胸に新生活がスタート

4月9日に町内の5小学校で、10日に3中学校で入学式が行われました。今年は小学校で247人(市場小56人、上野小19人、金田小94人、伊方小57人、弁城小21人)、中学校で217人(赤池中72人、金田中77人、方城中68人)の新たな学校生活がスタート。弁城小では、在校生たちによる手作りの学校紹介が行われ、和やかなムードで新入生の入学を歓迎していました。

↓ 子どもたちの交通安全への思いが込められた目録を渡す辰島会長(左から2番目)。



子 下田川ライオンズクラブが町に交通安全グッズを寄贈
子どもたちの交通安全のために

下田川ライオンズクラブが3月27日に教育委員会を訪れ、町内の5小学校へ入学する子どもたちのために、黄色い帽子や交通安全指導員用ベストなどの交通安全グッズを寄贈しました。これは同クラブによる青少年育成事業の一環。辰島正治会長は、「地域のみみんなで子どもたちの安全を守る社会作りの手助けになれば嬉しい」と、笑顔をのぞかせていました。

命 サケの稚魚放流
育む美しい川への願いを込めて

3月19日に方城伊方大橋の高架下でサケの稚魚放流が行われ、方城中1年生や伊方小4年生など約100人が参加しました。町ボランティアグループ「福智五〇会」が主催し、国交省職員による水質調査の学習会で川の重要性を学んだ後、サケの稚魚約4千匹を放流。参加者たちは「また会おうね」と稚魚に優しく話しかけ、再会のために川を守っていくことを誓いました。



↑ サケの遡上を願い、稚魚が入ったバケツを傾けて優しく放流する方城中1年生。

↓伊方小6年生と一緒にカメラに向かって「どんだけ〜」。収録の楽しさをうかがえる笑顔があふれていました。



美 IKKOさん母校でNHKインタビュー収録
美のカリスマの原点に迫る

4月19日にNHK「ホリデーインタビュー」の取材で、テレビなどでも大活躍中の美のカリスマIKKOさんが福智町に帰ってきました。著名人の原点や人生のターニングポイントを取材する番組で、IKKOさんが幼少から高校生までを過ごした伊方地区での生い立ちに焦点が当てられました。この日IKKOさんは母校の伊方小を訪れ、IKKO文庫のある図書室で児童たちと交流。自身の経験や夢を叶えるための秘けつを児童たちと語り合ったこの様子は、5月6日の朝6時30分から総合テレビで全国放送される予定です。

頂 中村さんフットサル全国大会に出場
き目指して福智から全国へ

3月8日から17日にかけて、フットサルの全国大会である「プーマカップ2013」が開かれ、中村恭輔さん(西金田)が所属する「ボルク北九州」が、4年連続で全国大会に挑みました。チームの副キャプテンで、守護神として「ゴレイロ(ゴールキーパー)」を務める中村さん。全国大会では惜しくも決勝進出を逃したものの、中村さんは「福智町を背負う心意気で、より練習に励み、全国制覇を目指します」と、夢を実現するため、さらなる飛躍を誓いました。



← 5年連続の全国大会出場を目指し、本拠地の北九州市で週に5日練習しています。

↓ 上野焼のよさをどう伝えるか、歴史や考古学の専門家と議論を深める長谷川さん。



漫 長谷川法世さんを迎えた上野焼教材編集委員会
漫画で福智の魅力と誇りを子どもたちへ

4月5日に赤池支所で福智町ゆかりの漫画家、長谷川法世さんを招いた上野焼教材編集委員会が開かれました。この委員会では、上野焼の歴史や文化を学ぶ小学校社会科の教材を作成しています。漫画編を担当する長谷川さんは「歴史を学ぶことを通して、知識を得る楽しさを知ってもらいたい。この教材がその一助になれば」と、編集に意欲を燃やしていました。